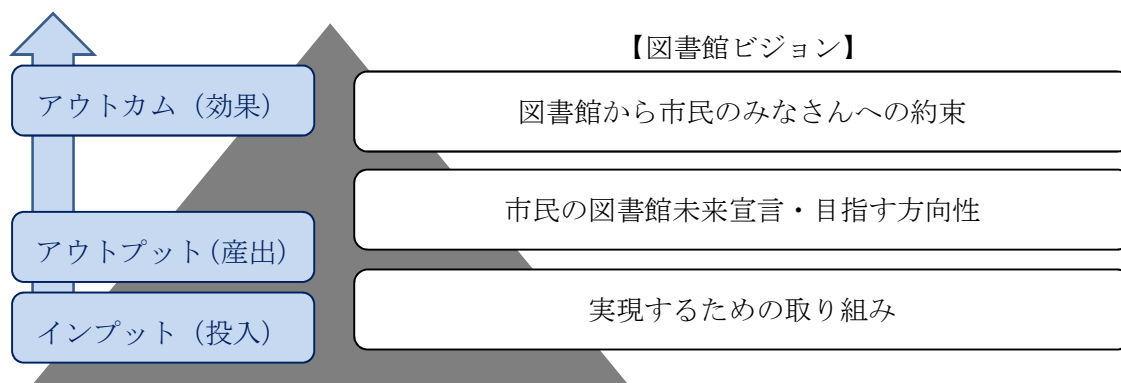


図書館評価の方法について

1 図書館ビジョン体系と評価の関係



- ・「図書館から市民のみなさんへの約束」実現のために、「市民の図書館未来宣言・目指す方向性」に沿って個別の事務事業を実施する。
- ・事業を積み重ねることにより「図書館から市民のみなさんへの約束」を常に市民が享受し、図書館に対する満足度が向上することが「アウトカム」となる。

2 評価の方法

(1) 評価項目と評価指標

- (ア) 図書館ビジョンに掲げる「図書館から市民のみなさんへの約束」に関し、アウトカム指標の数値をモニタリングする。
- (イ) 図書館ビジョンに掲げる「市民の図書館未来宣言」の「いかす」「はぐくむ」「つながる」「つくる」の4つのキーワードのもとに、具体的な評価項目及び目標値を定め、達成度を測る。

(2) 評価手順

- (ア) 「図書館から市民のみなさんへの約束」に関するモニタリングのために、中央図書館及び関係課が実施するアンケート調査から、図書館の総合的な満足度に係る設問の数値を抽出する。これらのアウトカム指標の数値は、個々の事務事業を執行した成果として総合的に表われるものであり、あらかじめ目標値を設定することはしない。アンケート調査等で利用者から寄せられた《図書館を利用することにより得られた成果》を併せて示す。

(イ)「市民の図書館未来宣言」キーワードごとに定めた評価項目については、アウトカム指標である満足度などを除き、目標値を設定する。その目標値と実績値との比較により達成率を算出し、下記基準により評価する。

【評価基準：指標別評価～目標値の達成率】

評価尺度	達成率
5	100%超
4	90%以上 100%以下
3	80%以上 90%未満
2	70%以上 80%未満
1	70%未満

$$\text{達成率} = \text{N年度実績} / \text{N年度目標} \times 100$$

なお、評価指標によっては達成率では評価できない場合もある。その場合は進捗の状況により評価する。

【評価基準：達成率によらない場合】

評価尺度	進捗の状況
5	年度当初の予定を超えた進捗の状況である
4	年度当初の予定どおりの進捗の状況である
3	年度当初の予定に及ばなかったものの、それに近い状況である
2	進捗はしているものの、年度当初の予定に遠く及ばない状況である
1	未実施である

(ウ)「市民の図書館未来宣言」の4つのキーワードごとに、評価指標の平均評価点により評価する。この評価は、A～Cの尺度にて示す自己評価となる。

評価尺度	評価内容
A	平均評価点 4.00 以上 目標が達成され、十分な成果をあげた
B	平均評価点 3.00 以上 目標がほぼ達成され、一定の成果をあげた
C	平均評価点 3.00 未満 目標が達成されず、不十分な成果であった

(エ) 前記(イ)及び(ウ)を踏まえ、実績・成果について考察するとともに、今後に向けた課題を抽出する。これらは、記述による自己評価となる。この際には、アンケート調査等で寄せられた意見も参考とする。

(オ) 図書館協議会委員は、以下の評価の視点から図書館の自己評価について評価する。この評価は、A～Cの尺度にて示す外部評価となる。

評価の視点

- ・ 自己評価結果の内容は適切か。
- ・ 評価指標の設定が適切か。
- ・ アウトプットのみならず、アウトカムと関連付けての評価をする。

(3) 公表方法

(ア) 上記(2)評価手順(イ)～(オ)について、「市民の図書館未来宣言」の4つのキーワードごとに、「市民の図書館未来宣言評価シート(N年度)」を作成し、同評価手順(ア)の内容と併せて公表用資料「浜松市立図書館評価(N年度)」を作成する。

(イ) 「浜松市立図書館評価(N年度)」は、浜松市立図書館の公式ウェブサイトで公表するほか、中央図書館窓口にて閲覧を可能とする。また、利用に関するアンケート調査の結果も同様に公表する。